

内科系研修プログラム

I プログラムの名称

国際医療福祉大学病院 内科系初期研修プログラム

II プログラムの目的と特徴

現行の初期臨床研修では6か月以上の内科研修が義務付けられています。初期臨床研修の基本となる内科研修ですのなるべく初年度に6か月研修できるようにしています。研修期間中も日中や当直時間帯で救急患者診療が可能であり、救急研修も兼ねられます。国際医療福祉大学病院では内科は循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、神経内科、(糖尿病・内分泌科は入院患者なしのため研修不可)の5診療科のなかで2か月ずつ3つの診療科をローテーションします。選択期間を含めてすべての診療科をローテーションすることも可能です。

日本内科学会認定内科医を取得希望する場合は、初期研修期間終了後に後期研修プログラムで内科系の診療科を選択することにより可能となります。

III. プログラムの指導者

評価責任者	: 柴 信行
指導医責任者	: 加藤 宏之 (神経内科)
	大野 彰二 (呼吸器内科)
	柴 信行 (循環器内科)
	兼光 伯法 (循環器内科)
	一石 英一郎 (消化器内科)
	樗木 孝明 (腎臓内科)
	清水 弘行 (糖尿病・内分泌科)
指導医	: 辻田 章博 (呼吸器内科)
	橋本 律夫 (神経内科)
	小川 朋子 (神経内科)
	田川 朝子 (神経内科)
	上小牧 憲寛 (循環器内科)

IV. 研修期間

1) 期間

研修期間は各診療科2か月で、2か月×3の計6か月です。

2) 診療と指導・評価体制

診療体制や内容は各診療科で異なりますので詳細は後期研修プログラムの診療科研修のところを参照してください。基本的には内科では、研修医に対して指導医はマンツーマンで対応します。

評価は各診療科研修終了時に診療科責任者が行います

V. 内科系各診療科の概要・特徴

呼吸器内科：感染症、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎など呼吸器全般の診療を行っています。入院症例は肺癌や感染症が多く、外来では気管支喘息やCOPD、間質性肺炎などが多くを占めます。肺癌患者や高齢者の感染症を通して全身管理を学べ、さらに癌化学療法や緩和ケア、在宅酸素を含む在宅ケア、人工呼吸管理、呼吸リハビリなども研修できます。

消化器内科：消化管、肝臓、胆道・膵臓など消化器全般の疾患を診療しています。上部、下部の内視鏡検査・治療はもとより、ERCP や血管造影下の診断・治療まで幅広い手技を行っています。また総胆管結石や膵石に対する体外衝撃波破碎術や癌に対する放射線照射等、高度の治療も施行出来ます。

循環器内科：高血圧を中心に狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全、末梢動脈疾患等の診療を行っています。平成15年より、当院でも心臓カテーテル検査が可能となり、狭心症や心筋梗塞に対するより高度な診断および治療が期待されています。

神経内科：脳出血、脳硬塞等の脳血管障害を中心に、髄膜炎、脱随性疾患、変性疾患、筋疾患、末梢神経疾患の診断および治療を行っています。当院には神経難病センターがあり、専門的な立場より、高度な診断、治療を行っています。またリハビリ体制も充実しており、患者様の家庭および社会復帰に対し、最善の努力を行っています。

腎臓内科：血尿、蛋白尿から腎不全まで幅広い腎臓疾患を対象としています。特に透析中および透析導入患者様の数は多く、1日20名以上の透析を行っています。県北の腎疾患診療拠点病院の一つとなっています。

生活習慣病：糖尿病、高脂血症を中心に診療しています。糖尿病患者では、腎、心、眼、神経系に合併症を伴っていることが少なくなく、他科との協力のもと診療を行っています。また甲状腺疾患を始めとした内分泌疾患の患者数も多く、専門的な治療を行っています。